

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200319		
法人名	特定非営利活動法人 ゆい佐久間		
事業所名	おおらかハウス		
所在地	静岡県浜松市天竜区佐久間町相月2062		
自己評価作成日	平成24年2月3日	評価結果市町村受理日	平成24年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/BackTop.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋帳5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成24年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護するうえで「おおらかに こまやかに さりげなく」をモットーとしておおらかに関わり、細やかに感じ取り配慮し、さりげなく接するよう努めている。しかしこれは究極のテーマであり常に自己点検を迫られている。また低所得の方々に利用していただけるよう運営上は低料金での利用を可能とするようできるだけ利用代金を低く抑えている。地域向けにはサポーター養成講座等を開催し支援・相談に取り組めるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

天竜美林の山あいを上しJR飯田線城西駅に至る。眼下の水窪川の畔、子守唄にも似た清流のせせらぎに癒される豊かな自然環境の中に事業所はあり、利用者家族からも子どもの頃の原風景を髣髴させるようで安心したという声が多数寄せられているという。障害者支援も含めた山間地での複合的な介護福祉をライフワークにとの管理者の思いは強く、例えば運営面での様々な工夫と努力で利用者家族にとって支払い易い料金設定を実現させている。アルミ缶の回収、盛況だった認知症サポーター養成講座、集落の多数が参加してくれる防災訓練等々、過疎地の活性化をも視野に入れた多様な取り組みがなされていて、地域にとってかけがえのない存在となりつつある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方を支える介護の拠点でありたいとの思いから認知症サポーター養成講習など企画し地域に呼びかけているが十分な取り組みには至っていない。	「おおらかに、こまやかに、さりげなく」を開所以来の理念とし常に利用者側に立った運営を目指している。職員は理念の理解はあるが実践面ではまだ不十分であると管理者は考え外部研修に積極的に参加させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりは維持できている。防災訓練等で近隣の方々の応援が常に得られている。今年も祭りには出店をだした。アルミ缶回収はかなり浸透してきている。	開催した認知症サポーター講座には地域から40名の参加があり次回は事業所内で実地講習を予定している。1tものアルミ缶回収、祭り恒例のやきそば出店など結びつきは強く、過疎化が進む地域を活性化させている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所としての取り組みではないが、法人として昨年の認知症サポーター養成講座の開催に引き続き今年度は養成講習を計画しており、継続的に地域支援を進めていく方針で進めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営の現状についてこと細かに報告をし共通認識を持っていただけるよう努めている。	自治会長・自治センター課長・民生委員・亡くなられた元利用者の家族そして家族代表のメンバーで隔月毎に開催している。参加者からは、アルミ缶回収や病院への付添い支援などに関して貴重な意見がもらえている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議の一員として参加していただいている担当課長さんを通して情報は伝えているが、担当者との関係は進展していない。	区役所出先機関の自治センターとは親交が深い。月に一度の介護相談員の訪問はあるが、合併の影響で管轄となる区役所の担当者とは意思の疎通は充分ではないと管理者は感じている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	あからさまな拘束はしていないが立ち歩きたいのに座っていてもらったり、自由に歩きたいのにホーム内にとどまってもらうなどは拘束と思っている。拘束をなくすには職員の絶対数が不足している。	「身体拘束ゼロ宣言」はしていないが、玄関の施錠を含め身体拘束の事例はない。ただし、「ちょっと待って」などの言い方も行動制限だと管理者は考えており、外部研修にも交代で参加させ、職員会議で話し合い改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を読みあうなどし内容の理解に努めている。また虐待ではないかと思われる言動を見逃さないよう管理者はチェックし必要なアドバイスを行っているつもりである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員間での話し合いは充分できているとは言いがたい。成年後見制度の必要性について感じるケースがでてきているが具体的取り組みはできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明の際に質問や疑問には答えるようにしている。特に入居後の生活のイメージを持てるよう、またご家族の関わりについてお願いしたいことなど具体的に話すようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には週一回のミーティングや個別に話せる機会にさりげなく聞くようにしている。ご家族には会食会の折などにできるだけ話をする時間をつくり要望等聞くよう努めている。外部者と話す機会は相談員さんが主である。	隔月毎に開く家族食事を通して食べ物情報他意見をもらっている。また、休刊していた「おおらかハウスだより」も再開を考えている。利用者の要望から導入したカラオケDVDや近隣ドライブは利用者の安定に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1～2回の会議の中で意見を聞くようにしている。また必要に応じて随時相談するようにしている	開所以来の職員が3人おり半数が在職6年以上と定着率も高く、会議では全員が発言しやすい環境にある。特に行事に関しての提案は活発である。職員から個別面談の申し入れがあることもあり、管理者は真摯に向き合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準を高めるためには処遇改善交付金を頼るしかない現状。キャリアパスの導入は難しい。労働時間については臨時の職員を確保することで労働超過とならないよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけ外部の研修に出られるよう計画し進めている。また外部研修で培った知識や技術を伝達する機会を設け、全員のものにするよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム間の研修を増やす方向に働きかけているが思うほどには進展していない。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にはなかなか具体的な話が聞けないことが多く、入居後の生活の様子を観察し、言葉にできない情報など察知しながら対応し信頼関係を築けるよう努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に話を聞く機会は設けているが入居後の状況について細かな情報を伝えることで信頼関係を築けるよう努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスを提供したいという気持ちで接しているが、他のサービスの利用は金銭的に現実問題として困難。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護レベルがあがり介護することに意識が向かいがちで共に生活するという意識が薄れがちと感じている。関わる上では飼育ではなく介護と職員を戒めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	充分コミュニケーションがとれ頻繁に連絡し合える家族もあるが働きかけても思うような関係が築けない家族も多い。そのため共に支えていくという関係が築けているとは言い難い現状である。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去には親しかった人に会いに出かけたり自宅への帰省を支援し自宅周辺の住民との交流をはかるなどしてきたが徐々にそうした取り組みもできなくなってきている。	機能低下の利用者も多くなりつつある中、雑巾縫いや手仕事内職を望む利用者への支援も行っている。事業所の支援を得て、福島、秋田などの故郷に里帰りできた利用者もいた。ほかに家族参加の誕生会も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に外出したり行事にちなんだ食事作りを共にしたりしながら協力し合う場や親しくしあう場を設けるよう努めている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の介護施設に移ったケースについては詳細な情報を提供しスムーズな移行のための援助をした。また病院等に入院して療養している方についてもできるだけ訪問し状況を把握し必要があれば相談にのるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自ら意志を表明できる方についてはその意向を尊重している。表明できない方についてはそれを斟酌して対応するよう努めているつもりである	センター方式を研修受講した職員を中心に全員で取り組みを始めた。日々の気づきを介護日誌に記入しているが「生きがいが持てる支援・満足のできる支援を」と考える管理者は更に密着した取組を職員に求めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームでの生活に生かせる情報の把握を心がけ、可能な限りそれらを生かすようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	大雑把には職員間で共有しているが関わりはそれぞれ微妙に違い、日々現状把握の共有と関わり方の統一に努める必要を感じている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画については職員が主体となっており家族や関係者には計画を提示するなどして承諾を得るにとどまっている。介護上のアイデアについては家族からの意見も得られているケースもある。	アセスメントは担当者が行い、全員でカンファレンスを持ち、管理者が介護計画を作成し、その後家族の承諾を得ている。利用者が自宅で使っていた馴染みの介護器具の情報が介護計画に反映されたこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有はほぼできているが個別記録への記入は滞っている。どう記録の時間を確保するかが課題である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者へのサービスとしては通院時の付き添いや入院時の生活支援。個別の外出支援など行っている。多機能的な支援はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地区の行事に数多く参加してきたが心身の衰えのため参加できなくなってきた。地域資源の活用もあまりできていないと言っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と相談しながらセカンドオピニオンを意識的に開拓したりなど適切な医療を受けられるよう努めている。	定期受診は近所の医療機関を利用し緊急時には救急搬送で対応している。30分程かかる大きな医療機関への付添い受診の支援もおこなっている。専門医への受診ではセカンドオピニオンで対応したこと、改善に向かった利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を雇用、契約できていないため急変時は嘱託医に相談している。ただし土・日はできない。近所に住む看護師に緊急時の相談や対応を手伝ってもらったことはある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近くの入院可能な医療機関については利用頻度が高く医師や看護師によっては相互の理解が図れており、早期の退院についても意思疎通ができていますがすべての関係者との関係づくりができていないと言っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についてホームでできる対応について説明しながら家族の意向を年1回確認している。チームでの支援については今後の課題である。	看取りの実績はないが重度化が進んでいる利用者の家族とは話し合いを始めている。医療機関との連携のもと、往診頻度や救急搬送体制の確立、家族宿泊も考慮したチーム支援に取り組もうとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	差し迫った課題となっており、以前より職員の意識は高くなってきているが、実践的な力はまだ充分とはいえない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3～4回の避難訓練を地域の方々の協力を得て行っている。防災に関するマニュアルを年1回確認しているが現実となった場合、周辺の環境を考えると不安は大きい。	防災訓練には毎回集落の人たちの参加が7～8人あり、地域協力で成り立っている。夜間想定をメインに行い、3日分の水・食料を備蓄している。断水・停電の長期化を念頭に、山の湧水を生活水として利用するという工夫もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気をつけているつもりでもまだ人前でその場に不必要な個人の情報を伝達しあう場面がみられる。指示的な言葉かけもまだ多くみられ改善が充分図れていない。	呼称は「さん」づけを基本としている。トイレ失敗など利用者の前で話さないことが原則であるが、馴れ合いで出てしまう場合もあり、その都度注意をしている。外部接遇セミナーやDVDによる内部研修で意識向上を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	週1回のミーティングや行事の折にその都度意見を聞くようにしている。生活場面でも必要に応じて希望を聞くようにしているが個別に話を聞く時間があまりとれていないのも事実。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には個々のペースで生活してもらっているが、入浴、着替え、日中の活動など職員の都合や考えに合わせてもらっている面もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に意識はしていないがその人なりの整容や衣類の選択を尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の心身の衰えが進み共に食事の準備や片づけを行なうことは日常的にはなくなってきたが行事などは意識してそうした場面を設けるようにしている。	機能低下で準備や片付けが無理な利用者も多いが食事はできる限り自分で行なう心がけている。献立は利用者で話し合っている。食材は「良い物をできるだけ安価で」と遠方に出向いていて管理者の努力がみえてくれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体力の低下や消耗度に合わせた補助飲料や食品を補助的に導入するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お茶でのうがいを奨励し可能な範囲で行なっているが歯磨きなど本人任せになっているケースもあり充分とはいえない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりの入居者について日中の排泄パターンをよんで誘導する取り組みを進めている。また紙パンツから布パンツにしていく取り組みも進めている。	ベテラン職員が多く排泄パターンを把握しサインを見逃さない気働きがあると管理者は感じている。布パンツとパット併用で取り組み、改善傾向にある利用者もいる。夜間は声掛けでパットを換えることもあれば、睡眠優先もあり、個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	市販の便秘茶を使用したり一日一度は散歩に出るなど工夫しているが便秘の解消には薬や浣腸に頼っている状況である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合が優先されているのが実情。現在の利用者に夜間入浴の希望が無いため支障はないが希望がでた場合介助の必要な方であればそれに応えるには新たな職員の確保が必要となり厳しくなると思われる。	入浴リフトを導入し機能低下した利用者の入浴が以前よりスムーズになり喜ばれている。1日おきのマンツーマン介助が基本で、毎日入浴の希望にも対応しうが希望者はいない。水虫予防にとムトーハップをかけている。	足拭きマットでの水虫拡散を防ぐため、個々の足拭きタオルで対応されることが期待される。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力やその日の体調を考慮して日中も昼寝してもらったり朝もゆっくり寝てもらったりしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は事務室に掲示するなどして共有し、薬の変更などは引き継ぎをきちんとし間違えないようにしているが年1~2回の誤薬がある。また内容についても十分に理解しているとはいえない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事や月ごとの外出行事は楽しんでもらっている。しかし身体機能の低下などにより個々に力を活かす機会が以前と比べて減ってきている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	以前は個別の外出を実施していたが身体の衰えもあり少なくなった。その日に急遽外出するには職員が勤務外に出るしかない状況にある。職員の仕事と同行する形での外出は頻繁にある。	花見、みかん狩り、葡萄狩り、温泉、菖蒲園、森林公園など季節を感じる外出支援を月に1度程度行っている。散歩は日課とし、職員が役所や銀行へ出向く車に同乗する利用者もいる。勤務外の職員が理髪店や買い物支援をすることもしばしばある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を持っている方はいるが使う機会がほとんどない。外出時には用意したお金で買い物し自分で支払えるよう援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話したいと申し出があった場合には電話することを援助している。家族から電話していただくようお願いしているが思うように連絡してもらえないケースが多い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りや置物、行った行事の写真の掲示など視覚的に楽しめるよう配慮している。またテレビの音量など意識して居心地が良いように努めている。	木目調を基本とした木のぬくもりと優しさを大切にした共用空間に、大きなカラオケDVDが利用できるテレビが配置されている。来客にはうがい手洗い励行を促して、また加湿器や濡れタオルも活用しており、感染症対策にもきめ細かな配慮が視える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにコタツやソファを離して設置しそれぞれが自由にくつろげるよう配慮はしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自由に物を持ち込めるようにしており使い慣れたタンスやベッドなど使用してもらっている。仏壇の持ち込みも二件ある。	「自分の部屋」という意識が持てるよう部屋には畳が敷かれ、各部屋ごとにトイレも完備され、利用者の馴染みの家具や仏壇・位牌の持ち込みもある。布団干しもローテーションで行われ、清潔と快適性保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活に必要なスペースはわかりやすいように表示したり歩行を助ける手すりを設置したりしてできるだけ自力で移動・行動できるようにしている。		